

第 4 章 動物・植物に係る調査結果

第 1 節 動物相（鳥類相）

第 1 項 調査概要

施設の供用による周辺動物相への影響を把握するため、評価書の事後調査計画に示したとおり環境の変化に敏感に反応すると考えられる種群で、定量的な調査方法がほぼ確立されており、環境の変化が数値として把握できると考えられる鳥類を対象に、調査を実施しました。

1-1 調査日時及び調査内容

調査は表 4-1-1 に示したとおり、春季に 1 回実施しました。

表 4-1-1 鳥類相調査年月日

調査時期	調査日	調査時間
春季	平成 26 年 5 月 23 日	6:00～8:00

1-2 調査方法

調査は予め設定した踏査ルートを、時速 2km 程度の速さで踏査し、片側 25m（両側で 50m）の範囲に出現する種及び個体数を記録しました。

なお、調査には 8～10 倍程度の双眼鏡を用いました。

1-3 調査地点

踏査ルートは図 4-1-1 に示した 2 ルートとしました。

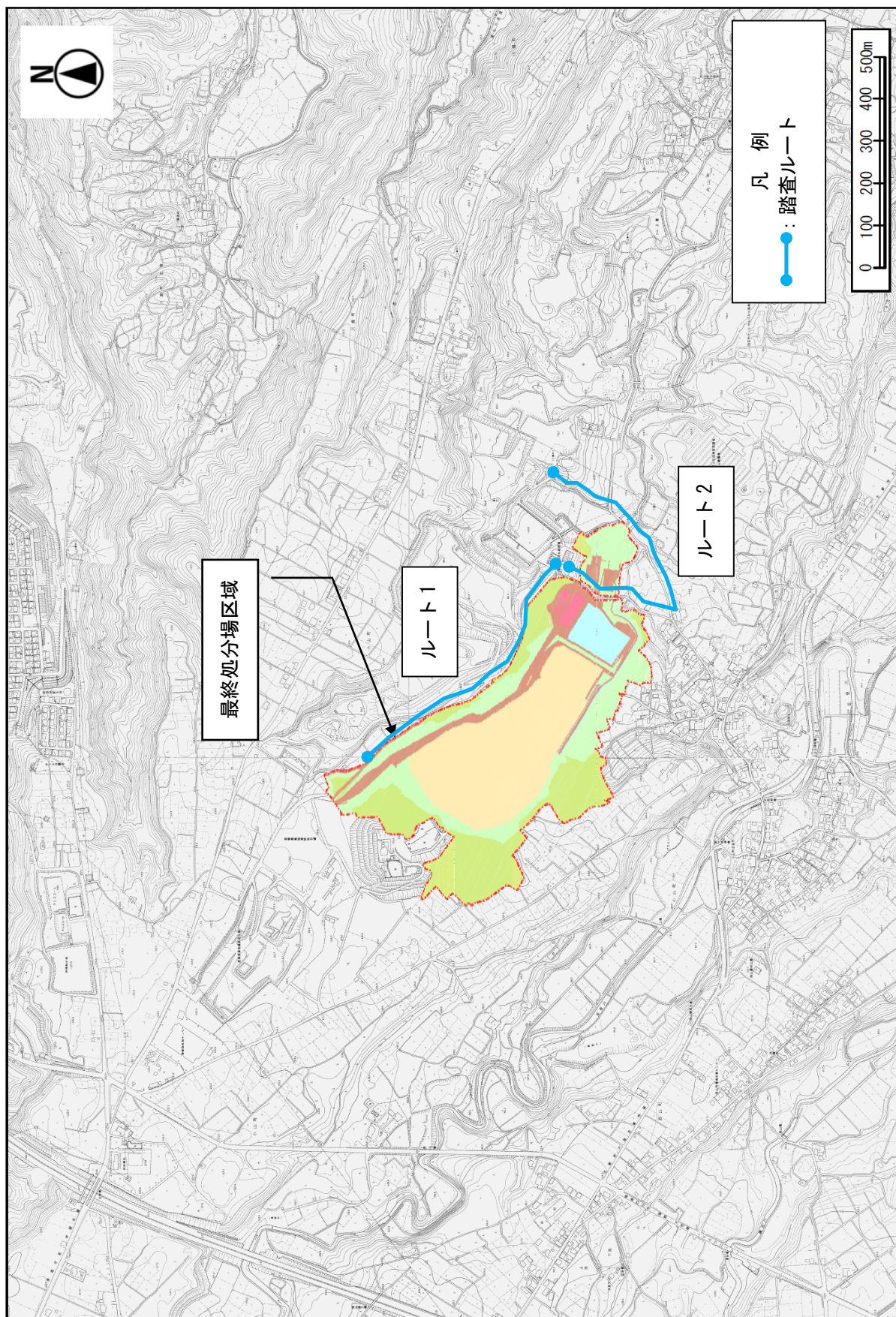


図 4-1-1 鳥類相踏査ルート

第2項 調査結果

調査の結果、表 4-1-2 に示したとおり、キジ、キジバト等 6 目 18 科 21 種の鳥類を確認しました。確認した種は、当該地域の環境（里山環境）を反映して、低地から低山地にかけて普通にみられる種で構成されていました。

踏査ルート別では、ルート 1 はキジバト、ホトトギス等 16 種 90 個体、ルート 2 はキジ、キジバト等 15 種 38 個体でした。種数では踏査ルートに関係なく概ね同程度でしたが、個体数ではルート 1 でハシブトガラスを特に多く確認したことにより個体数が多くなりました。

表 4-1-2 鳥類相調査結果

No.	目	科	種 名	渡り区分	ルート 1	ルート 2
1	キジ	キジ	キジ	留鳥		1
2	ハト	ハト	キジバト	留鳥	4	7
3	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	夏鳥	1	
4	チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		3
5	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留鳥	1	1
6	スズメ	カラス	ハシボソガラス	留鳥	2	2
7			ハシブトガラス	留鳥	37	2
8		シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	5	2
9			シジュウカラ	留鳥	2	
10		ヒバリ	ヒバリ	留鳥		1
11		ツバメ	ツバメ	夏鳥	2	2
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	10	6
13		ウグイス	ウグイス	留鳥	5	
14		エナガ	エナガ	留鳥	7	
15		メジロ	メジロ	留鳥	2	
16		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	1	2
17		スズメ	スズメ	留鳥	6	3
18		セキレイ	セグロセキレイ	留鳥		2
19		アトリ	カワラヒワ	留鳥	2	2
20		ホオジロ	ホオジロ	留鳥		2
21	(ハト)	(ハト)	カワラバト	家禽類	3	
6 目 18 科 21 種				留鳥：17 種	16 種	15 種
				夏鳥：3 種		
				家禽類：1 種	90 個体	38 個体

注 1：種名、学名等の分類情報及び配列順は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年、日本鳥学会）に準拠した。

注 2：渡り区分は、「三重県立博物館研究報告 自然科学第 1 号 三重県の鳥類相」（昭和 54 年、三重県立博物館）を参考に、昨今の県内での確認状況を踏まえ修正した。また、記載のない種については、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（2012 年、日本鳥学会）を参考にした。

注 3：カワラバトについては外来種のため別記扱いとし、目、科数はキジバトがあるため、含めないが、種数には含む。

次に、今回の調査結果と、昨年度の調査結果を比較しました。

目別確認種数の比較を図 4-1-2 に、踏査ルート別の目別確認個体数の比較を図 4-1-3 に示しました。

目別確認種数では、スズメ目に 3 種の差が見られましたが、それ以外にはほとんど差はありませんでした。また、踏査ルート別の確認個体数では、今年度のルート 1 で、スズメ目が突出しています。これは前述のとおりハシブトガラスを多く確認したことによるもので、その分を考慮すると、昨年度と特に大きな差はないと考えられます。

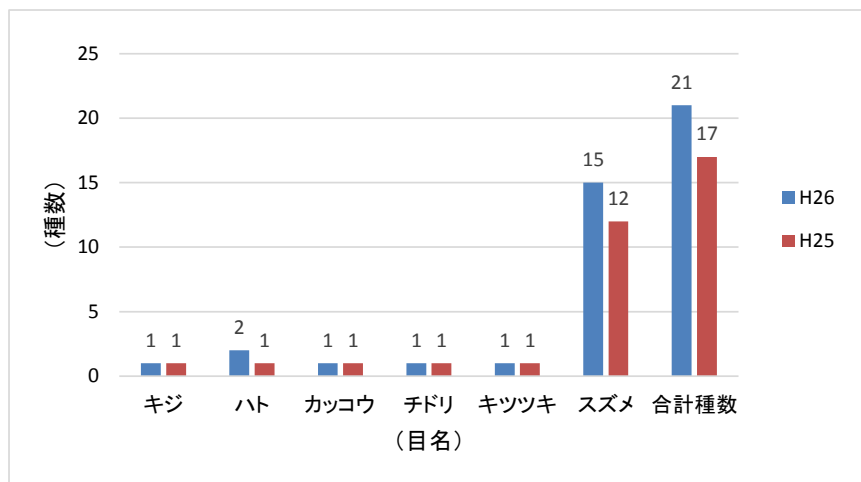


図 4-1-2 目別確認種数比較

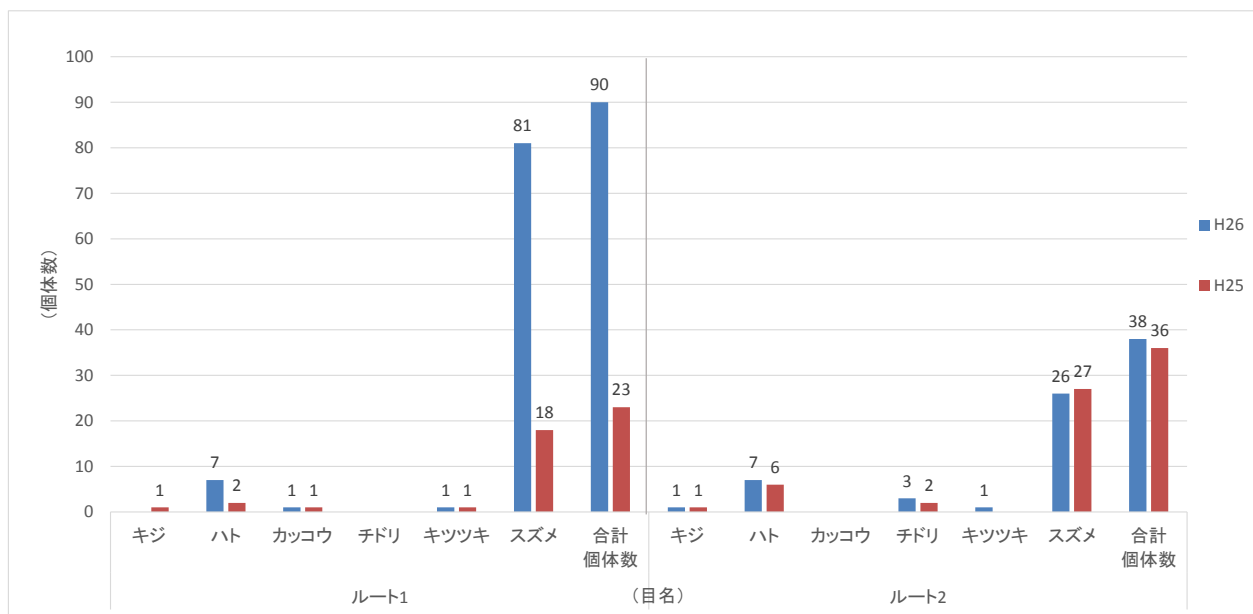


図 4-1-3 踏査ルート別確認個体数比較

第2節 特筆すべき動物

第1項 調査概要

評価書の現況調査時に生息を確認した特筆すべき種について、事業実施後の生息状況を把握するために調査を実施しました。

第2項 オオタカ・ハイタカ

2-1 調査日時及び調査内容

調査は表 4-2-1 に示したとおり、平成 26 年 4 月及び平成 27 年 1 月から 3 月にかけて毎月 1 回実施しました。

表 4-2-1 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第 1 回	平成 26 年 4 月 11 日	6:00～13:00	生息確認調査
第 2 回	平成 27 年 1 月 20 日	7:00～13:00	
第 3 回	平成 27 年 2 月 10 日	6:30～13:00	
第 4 回	平成 27 年 3 月 5 日	6:30～13:00	

2-2 調査地点

調査地点は図 4-2-1 に示したとおりであり、最終処分場区域及びその周辺を広く見渡せる 2 地点で実施しました。

2-3 調査方法

調査は定点観察（8 倍程度の双眼鏡及び 25～30 倍程度の望遠鏡を使用）により行い、オオタカ及びハイタカの飛翔が確認された場合は無線機を用いて調査員間で連絡を取り合い、行動をより詳細に把握することとしました。

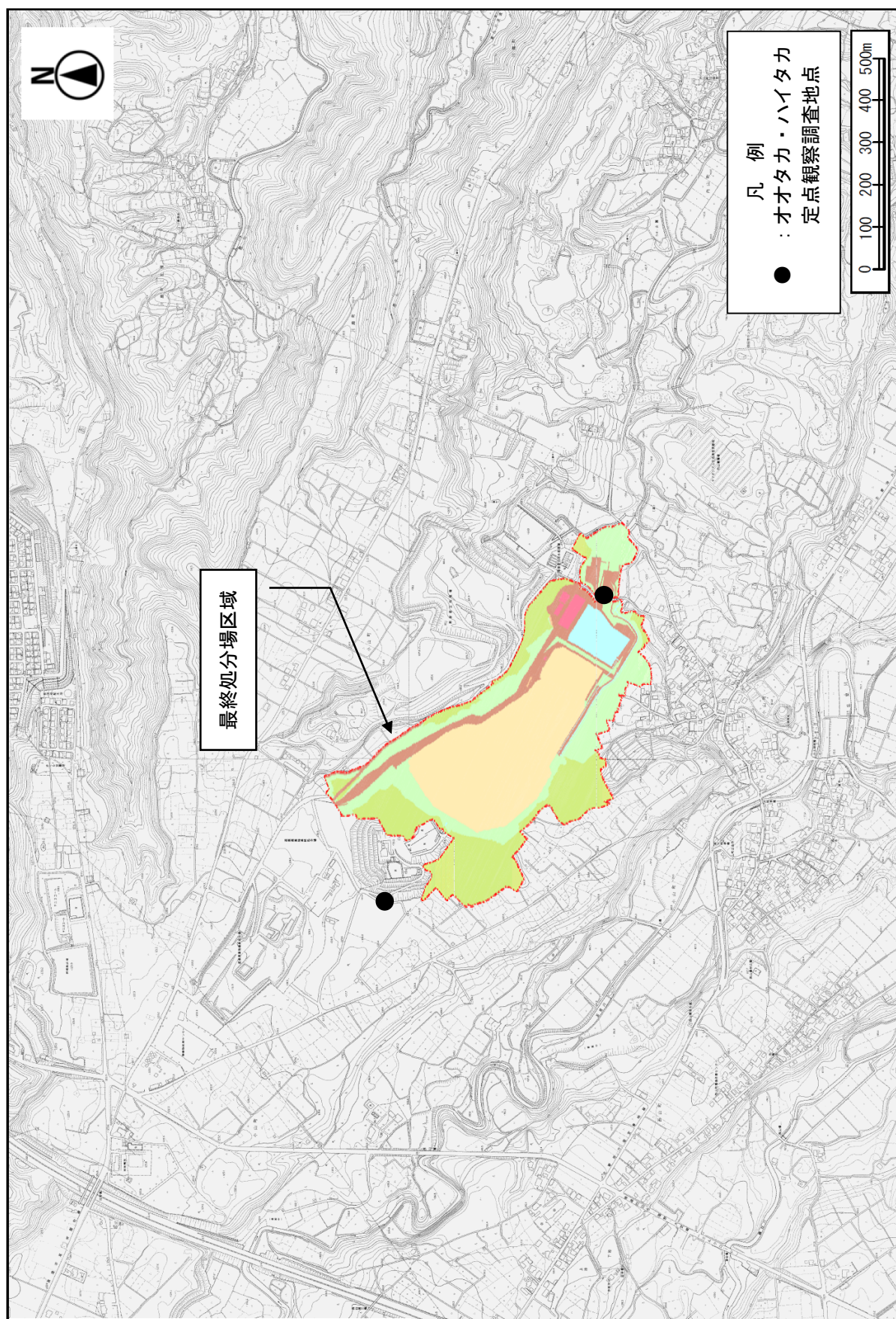


図 4-2-1 オオタカ・ハイタカ調査地点

2-4 調査結果

調査の結果、表 4-2-2 に示したとおり 4 月調査時にオオタカを 2 例、1 月調査時、2 月調査時にハイタカをそれぞれ 1 例確認しました。いずれも飛翔のみ、又はカラス類に追尾されての飛翔の確認であり、繁殖を示唆する行動（巣材運び、餌運び等）は確認されませんでした。

確認位置は図 4-2-2 に示したとおりです。

表 4-2-2 オオタカ、ハイタカ確認状況

No.	種 名	確認時間	雌雄・成幼	確認状況
1	オオタカ	平成 26 年 4 月 11 日 10:21～10:21	雌・成鳥	最終処分場北東側区域外上空を 30 個体ほどのカラス類に追尾されながら東方向へ飛翔している個体を確認。そのまま東方向へ飛び去った。
2	オオタカ	平成 26 年 4 月 11 日 10:43～10:43	不明・不明	最終処分場南側区域外上空を北方向に飛翔している個体を確認。まっすぐ北方向に飛翔するものの、手前の林で消失。
3	ハイタカ	平成 27 年 1 月 20 日 10:45～10:47	不明・不明	最終処分場西側上空を南方向に飛翔している個体を確認。向きを変え、西方向へ飛び去った。
4	ハイタカ	平成 27 年 2 月 10 日 11:10～11:10	雌・幼鳥	最終処分場中央付近上空を、カラスに追尾されながら南方向に飛翔している個体を確認。南側敷地境界付近の残置森林に止まるが、すぐに飛び立ち、手前の林で消失した。

※：表中の番号は、図 4-2-2 のNo.に対応する。

2-5 まとめ

今回の調査では、調査対象としたオオタカ、ハイタカとも生息を確認しました。

確認状況はいずれも飛翔のみで、繁殖を示唆する行動（巣材運び、餌運び等）は確認されませんでした。

最終処分場区域及びその周辺では、当該施設の北側に位置する四日市市南部埋立処分場を餌場として利用しているハシブトガラス及びハシボソガラスが多数生息していることから、本地域はオオタカ、ハイタカ等の猛禽類の採餌行動範囲の一部となる可能性はありますが、繁殖等の主要な生息地には適さない環境であると考えられます。

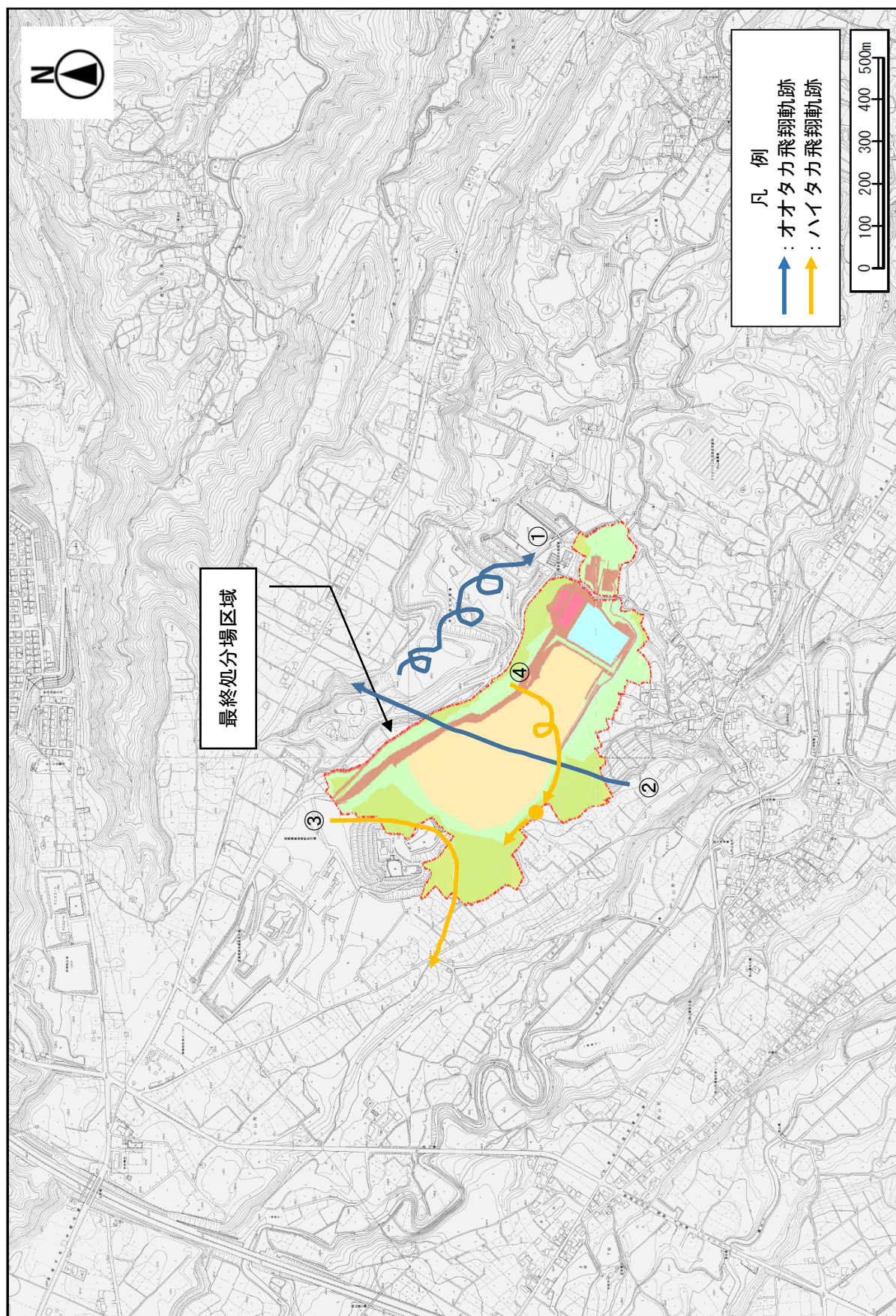


図 4-2-2 オオタカ・ハイタカ確認位置

第3項 チュウサギ・サンショウクイ・タゲリ等

3-1 調査年月日及び調査内容

調査は表 4-2-3 に示したとおり、夏鳥であるチュウサギ、サンショウクイ、コチドリ、キビタキを5月に、冬鳥であるタゲリを12月に実施しました。

表 4-2-3 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
チュウサギ サンショウクイ コチドリ キビタキ	平成26年5月22日	任意観察調査
タゲリ	平成26年12月17日	

3-2 調査範囲及び調査方法

調査範囲は図 4-2-3 に示したとおり、最終処分場区域及びその周辺とし、調査範囲内を任意に踏査する任意観察法により実施しました。

3-3 調査結果

調査の結果、調査対象5種（チュウサギ・サンショウクイ・コチドリ・キビタキ・タゲリ）の確認はできませんでしたが、4月のオオタカ調査時に最終処分場北側の残置森林内でキビタキ1個体を、5月の鳥類相調査時に、最終処分場東側の境界付近や調整池東側の裸地においてコチドリ3個体を確認しました。

確認位置は図 4-2-4 に示したとおりです。

3-4 まとめ

最終処分場区域内及びその周辺には、キビタキの好む樹林環境や、コチドリの好む水辺環境はあるものの、里山環境や耕作地環境は減少しているため、サンショウクイやタゲリの飛来の可能性は低いと考えられます。チュウサギについては、水辺環境を好みますが、調整池は本種の生息適地ではないことから飛来の可能性は低いと考えられます。しかし、調整池内の湿地環境が復元されることによりチュウサギの生息環境も復元され、飛来することも考えられます。

サンショウクイやタゲリについては、周辺に飛来した個体が偶然確認される可能性はありますが、最終処分場区域内及びその周辺の利用の可能性は低いものと考えられます。

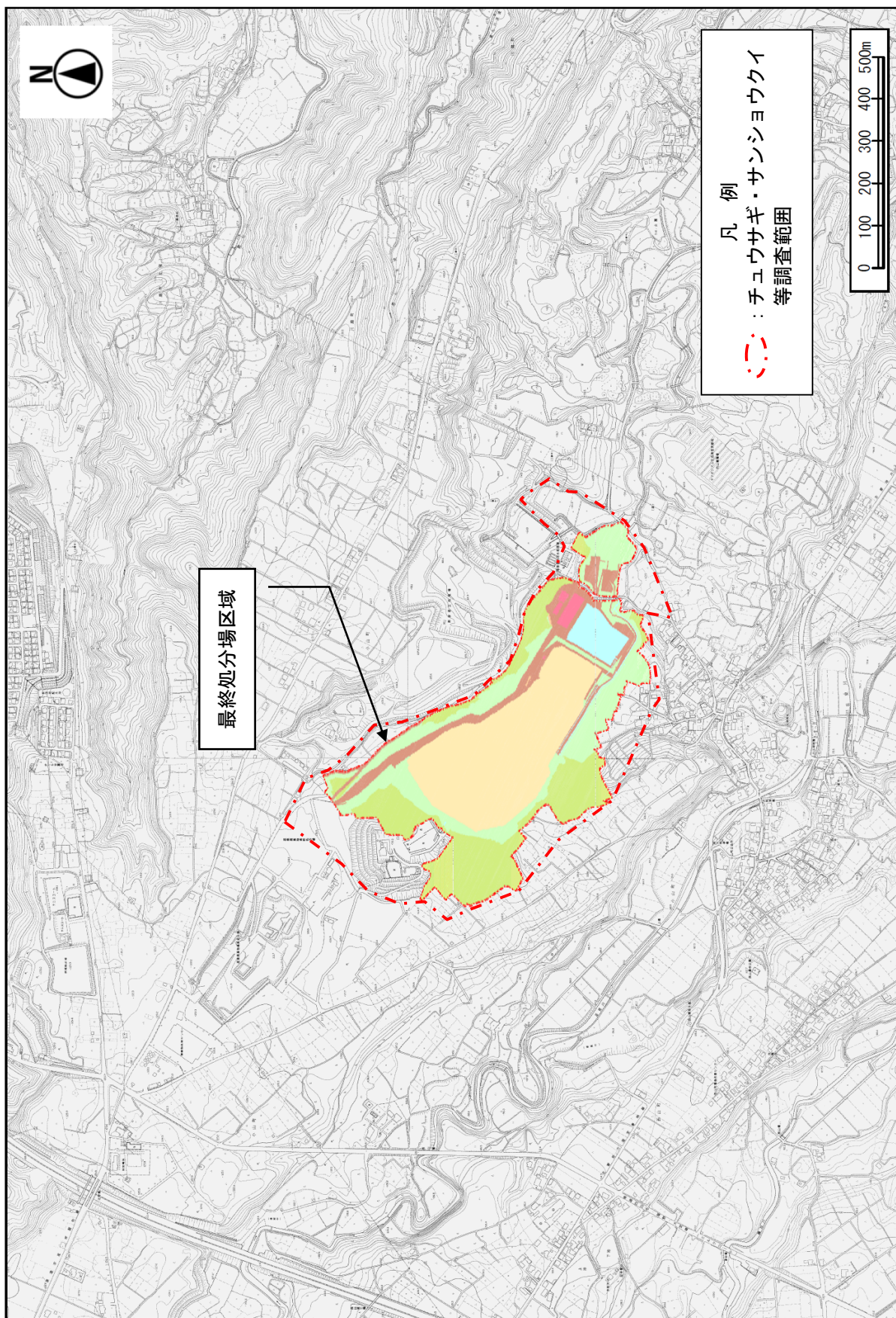


図 4-2-3 チュウサギ・サンシヨウクイ等調査範囲

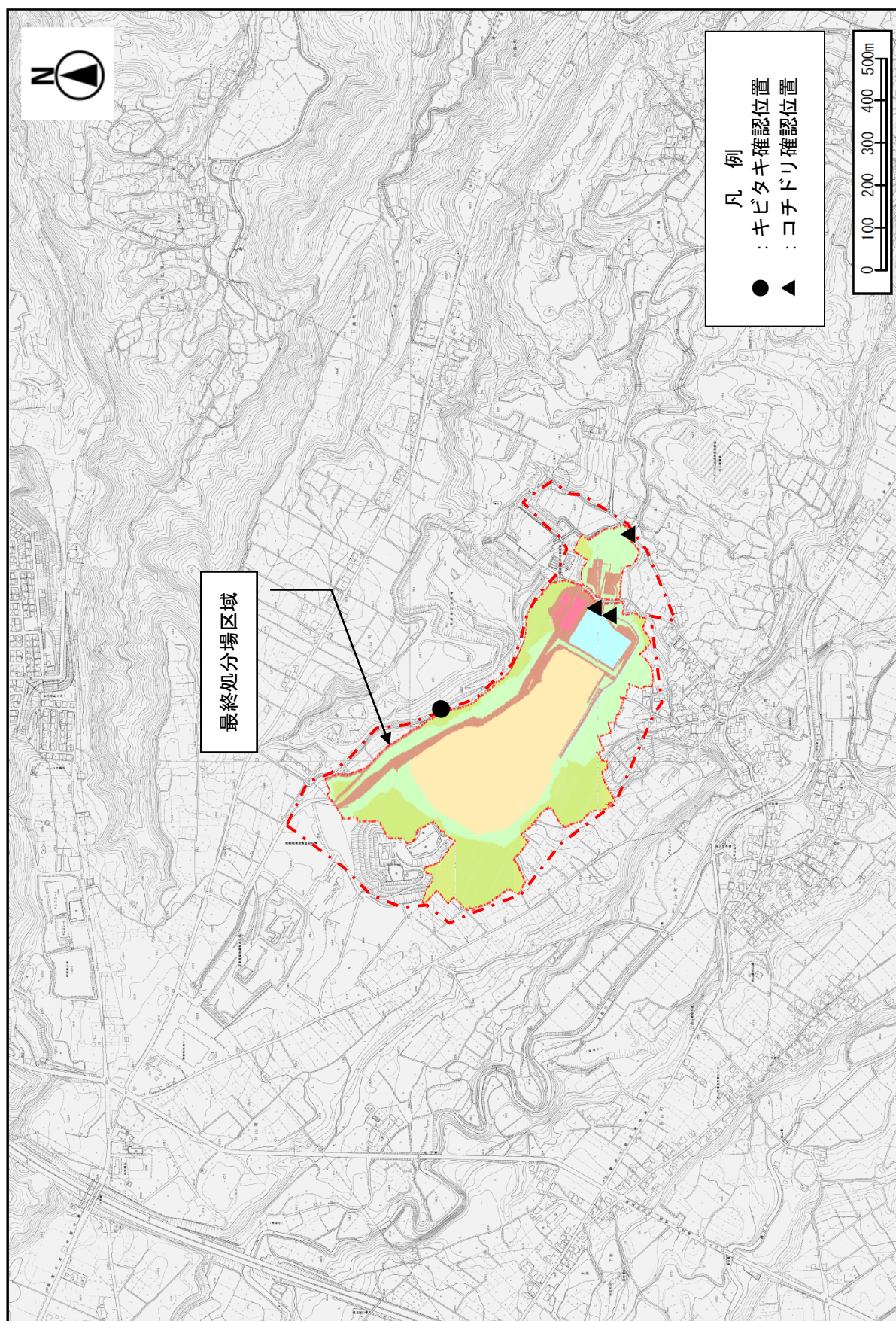


図 4-2-4 キビタキ・コチドリ確認位置

第4項 フクロウ

4-1 調査日時及び調査内容

調査は表 4-2-4 に示したとおり、平成 26 年 4 月及び平成 27 年 1 月から 3 月にかけて毎月 1 回実施しました。

表 4-2-4 調査日時及び調査内容

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第 1 回	平成 26 年 4 月 22 日	17:00～21:00	生息確認調査
第 2 回	平成 27 年 1 月 28 日	17:00～21:00	
第 3 回	平成 27 年 2 月 24 日	17:00～21:00	
第 4 回	平成 27 年 3 月 10 日	17:00～21:00	

4-2 調査範囲

調査範囲は図 4-2-5 に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心にして、最終処分場区域及びその周辺で実施しました。

4-3 調査方法

調査は夜間に実施し、調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施しました。

4-4 調査結果

調査の結果、3 月調査時に、最終処分場北側の樹林で鳴き声を 2 例確認しました。

確認位置は図 4-2-5 に示したとおりです。

4-5 まとめ

今回の調査では、フクロウの生息を確認しました。

確認状況はいずれも鳴き声のみで、繁殖を示唆する行動（巣材運び、餌運び等）は確認されませんでした。

最終処分場区域及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木はみられないことと、最終処分場区域及びその周辺では、当該施設の北側に位置する四日市市南部埋立処分場を餌場として利用しているハシブトガラス及びハシボソガラスが多数生息していることから、本地域は採餌範囲の一部となる可能性はありますが、繁殖等の主要な生息地には適さない環境であると考えられます。

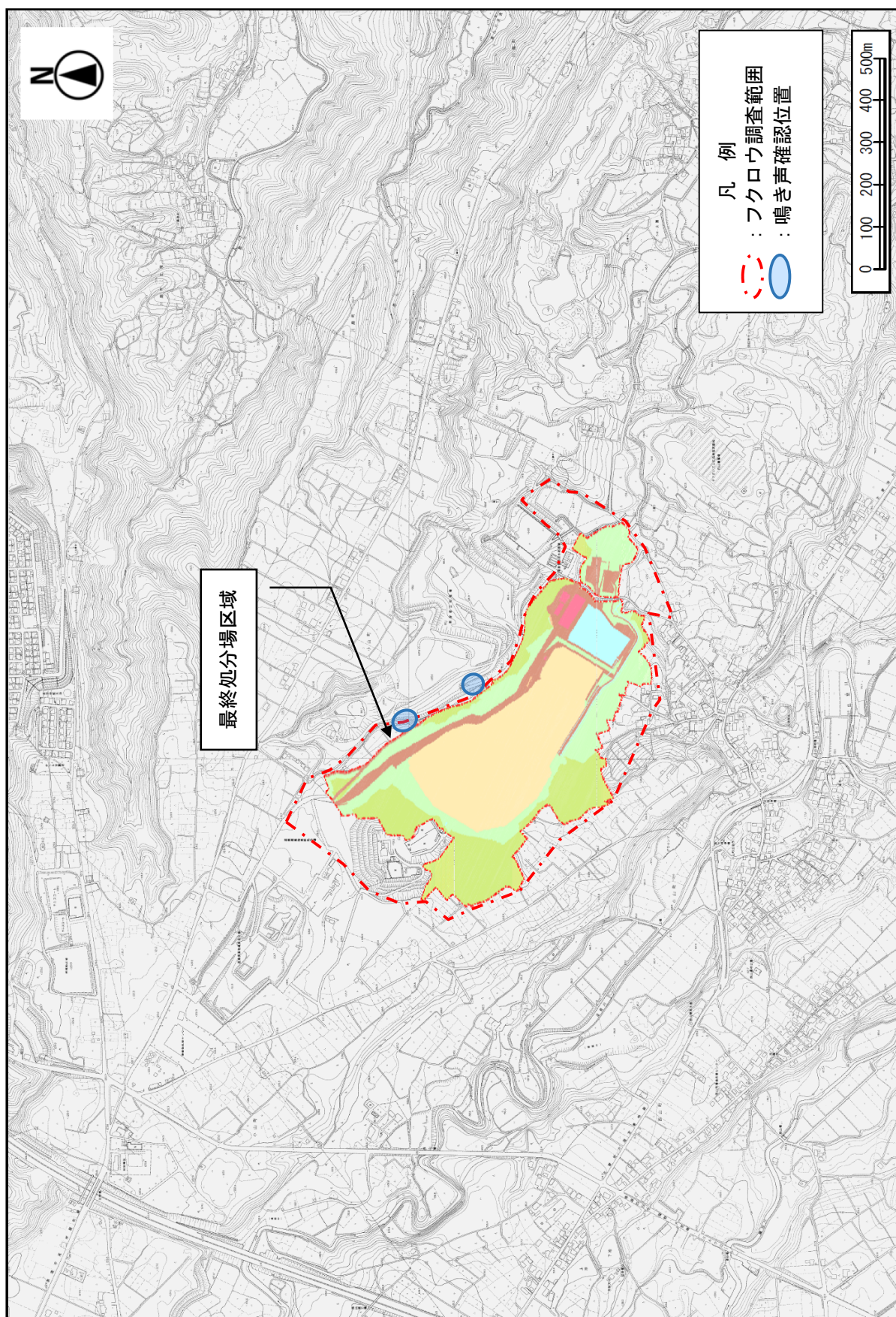


図 4-2-5 フクロウ調査範囲及び確認位置

第5項 アカハライモリ・ニホンイシガメ

5-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-2-5 に示したとおりです。

表 4-2-5 調査年月日及び調査内容

分 類	調査対象種	調査年月日	調査内容
両生類	アカハライモリ	平成 26 年 8 月 6 日	生息確認調査
爬虫類	ニホンイシガメ		

5-2 調査範囲

調査範囲は図 4-2-6 に示したとおりであり、最終処分場区域及びその周辺で実施しました。

5-3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施しました。

5-4 調査結果

調査の結果、本種を対象とした調査では、アカハライモリ、ニホンイシガメとも生息の確認はできませんでした。

5-5 まとめ

最終処分場区域内には当該種の生息環境は消失し、生息していた個体は一時的に周辺に退避しているものと考えられます。

最終処分場区域内には調整池が整備され、ニホンイシガメ、アカハライモリの生息環境が復元されることから、両種とも再び当該地域を生息地として利用することが可能になるものと考えられます。

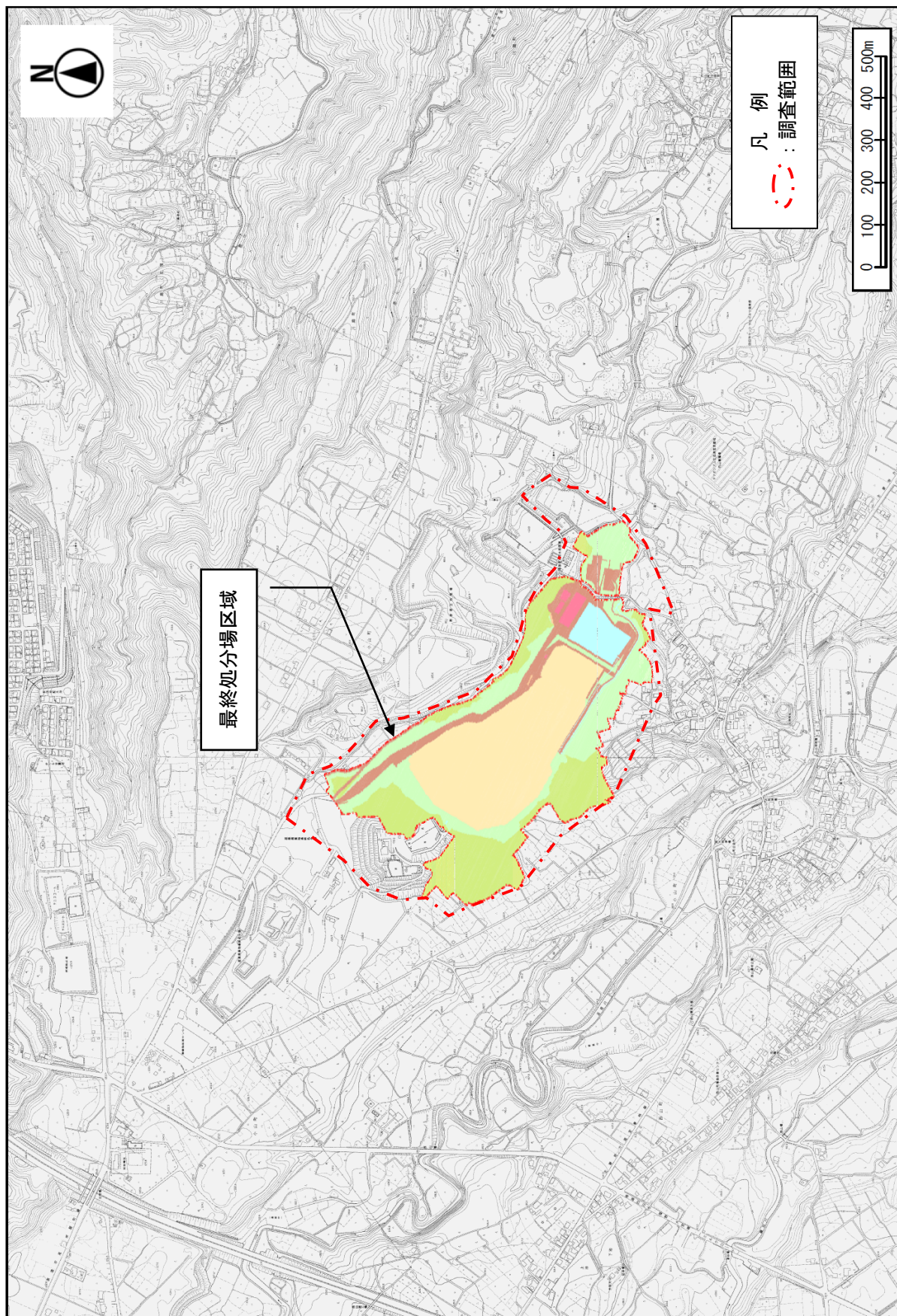


図 4-2-6 アカハライモリ・ニホンイシガメ調査範囲

第 6 項 ムカシヤンマ・オオクワガタ・コガネグモ等

6-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-2-6 に示したとおりです。

表 4-2-6 調査年月日及び調査内容

分 類	調査対象種	調査年月日	調査内容
昆虫類	ムカシヤンマ オオクワガタ ミカドガガンボ アオメアブ	平成 26 年 7 月 31 日、 8 月 20 日	生息確認調査
クモ類	コガネグモ アシナガカニグモ		

6-2 調査範囲

調査範囲は図 4-2-7 に示したとおりであり、評価書における現況調査で本種を確認した場所を中心に、最終処分場区域及びその周辺で実施しました。

6-3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により実施しました。

なお、クモ類については、任意観察調査の他、地上徘徊性の種を対象としたベイトトラップ（誘引餌を入れたプラスチックコップを地中に埋め、1 晩放置した後、翌朝回収）による調査も実施しました。

6-4 調査結果

調査の結果、調査対象としたムカシヤンマ等 6 種のうち、図 4-2-7 に示したとおり最終処分場東側でアオメアブ 1 個体、最終処分場区域内の調整池付近でコガネグモ 2 個体を確認しました。

6-5 まとめ

今回の調査では、調査対象 6 種のうち、アオメアブとコガネグモの 2 種の生息が確認されましたが、その他の移動能力の高い種については、最終処分場区域内における生息環境の消失に伴って一時的に周辺に退避しているものと考えられます。

最終処分場区域内の残存緑地や調整池等がこれらの種の生息環境として復元されることから、少しずつ確認される種が増えていくものと考えられます。

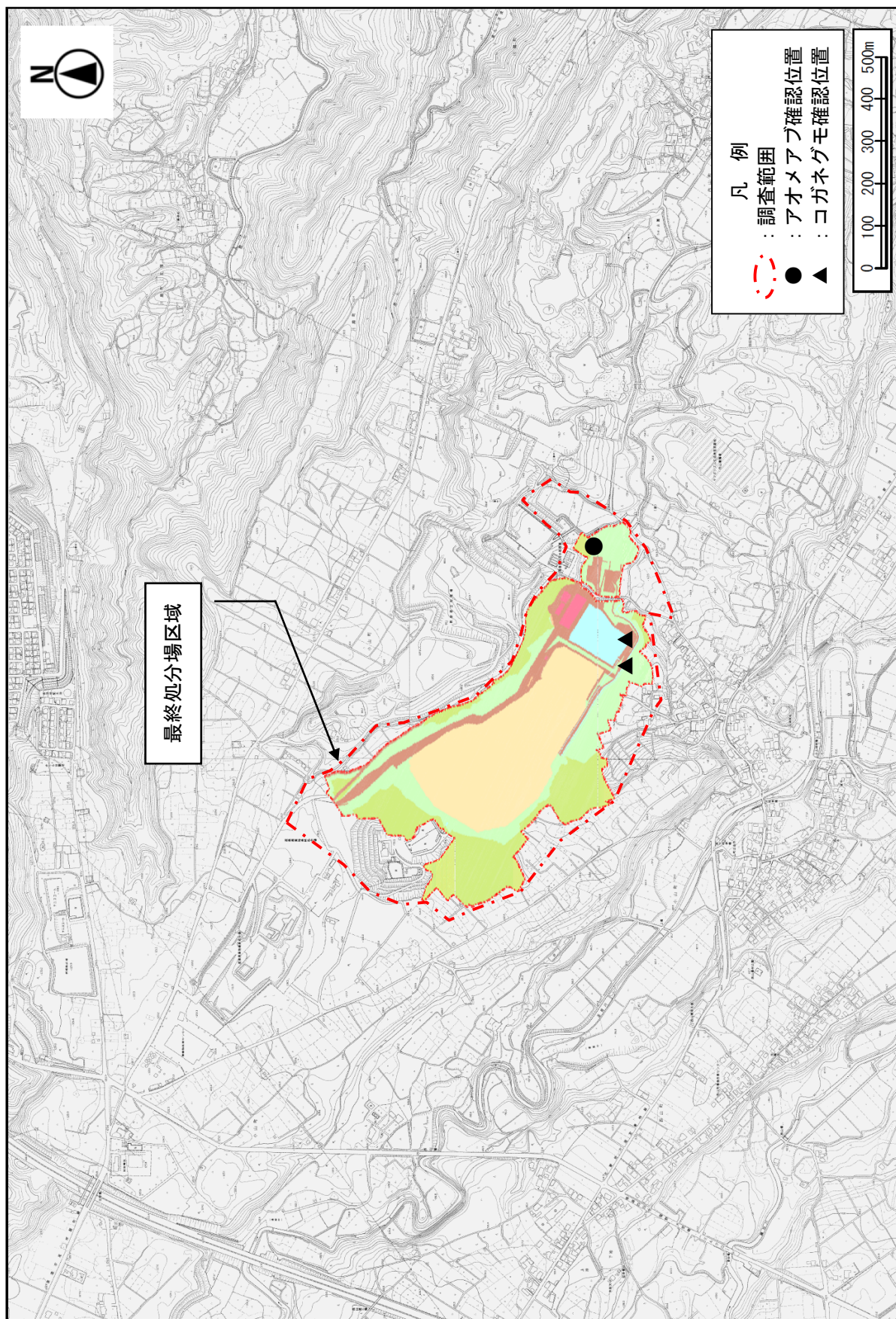


図 4-2-7 ムカシヤンマ等調査範囲及びアオメアブ・コガネグモ確認位置

第3節 水生生物

第1項 調査概要

評価書の現況調査時に生息を確認した水生生物のうち、特筆すべき種について、事業実施後の生息状況を把握するために調査を実施しました。

また、評価書の現況調査時より確認を続けている淡水魚類の生息状況についても調査を実施しました。

第2項 特筆すべき水生生物

2-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-3-1 に示したとおりです。

表 4-3-1 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
ヒラマキミズマイマイ ヒラマキガイモドキ ナガオカモノアラガイ マシジミ ドブシジミ コオイムシ	平成 26 年 7 月 7 日	生息確認調査

2-2 調査場所

調査は評価書の調査で実施した天白川の調査地点で実施しました。

調査地点は図 4-3-1 に示したとおりです。

2-3 調査方法

調査は調査地点周辺を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めました。

2-4 調査結果

調査の結果、ヒラマキミズマイマイを St. 3 の 1 地点で、ヒラマキガイモドキを St. 5 の 1 地点で、ナガオカモノアラガイを St. 3、4、7 の 3 地点で、マシジミを St. 2～7 の 6 地点で、ドブシジミを St. 5、6 の 2 地点で確認しました。

確認地点は図 4-3-2 に示したとおりです。

2-5 まとめ

調査の結果、調査対象とした 6 種（ヒラマキミズマイマイ、マシジミ、コオイムシ等）のうち、コオイムシを除く 5 種の生息を確認しました。

最終処分場事業の工事に伴い天白川水域を下流側へ移動したと考えられる個体も、最終処分場供用後、天白川の水環境が安定すれば再びこれら水生生物の生息環境も回復し、ゆっくりと上流側に戻ってくることが期待されます。

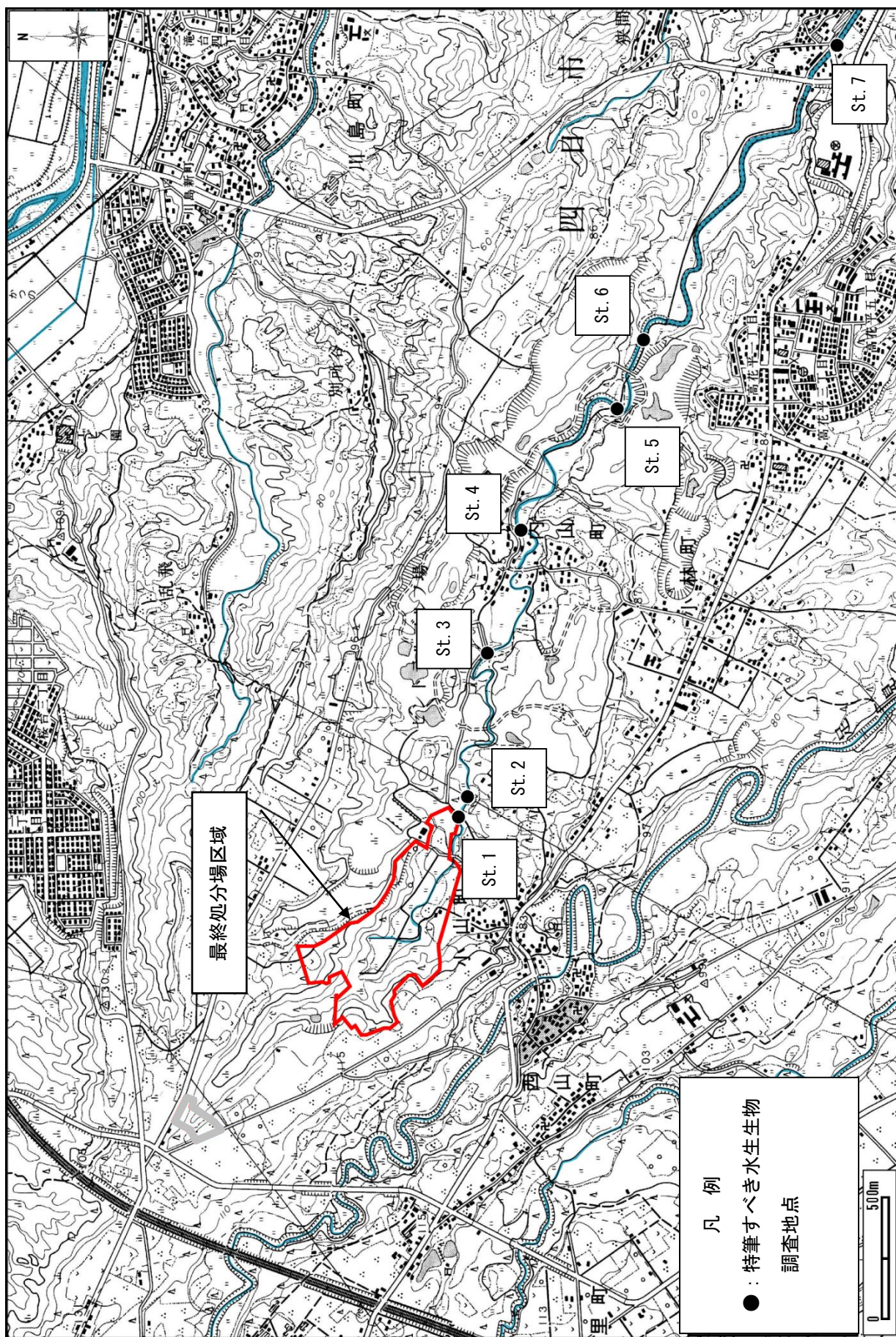


図 4-3-1 特筆すべき水生生物調査地点

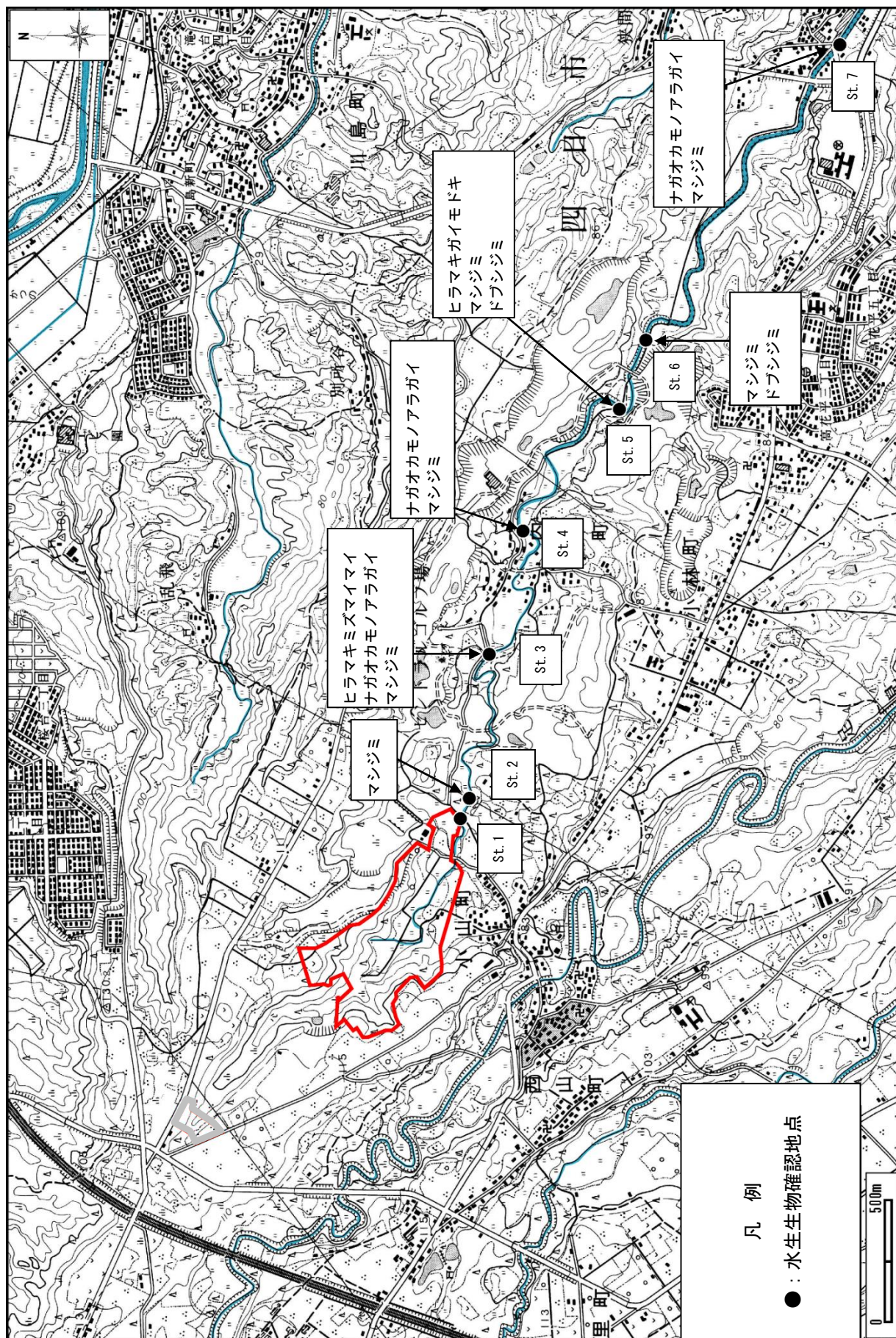


図4-3-2 特筆すべき水生生物確認位置

第3項 淡水魚類

3-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-3-2 に示したとおりです。

表 4-3-2 調査年月日及び調査内容

調査時季	調査年月日	調査内容
春 季	平成 26 年 5 月 14 日	捕獲調査、 目視観察調査、 任意調査
夏 季	平成 26 年 8 月 6 日	
秋 季	平成 26 年 11 月 5 日	
冬 季	平成 27 年 2 月 4 日	

3-2 調査地点

調査は図 4-3-3 に示した 3 地点（P. 1、P. 2、P. 3）で実施しました。

3-3 調査方法

3-3-1 捕獲調査

調査地点にカゴ網、セルビン各 2 個を設置して採集し、生息種の捕獲・確認を行いました。

カゴ網、セルビンは 1 時間設置し、餌として市販の練餌及びサナギ粉を用いました。

3-3-2 目視観察調査

岸辺や橋上から目視により観察を行い、生息種の確認を行いました。

3-3-3 任意調査

上記の調査方法に加え、調査地点周辺においてタモ網を用いて任意に採集し、生息種の確認をする任意調査も実施しました。

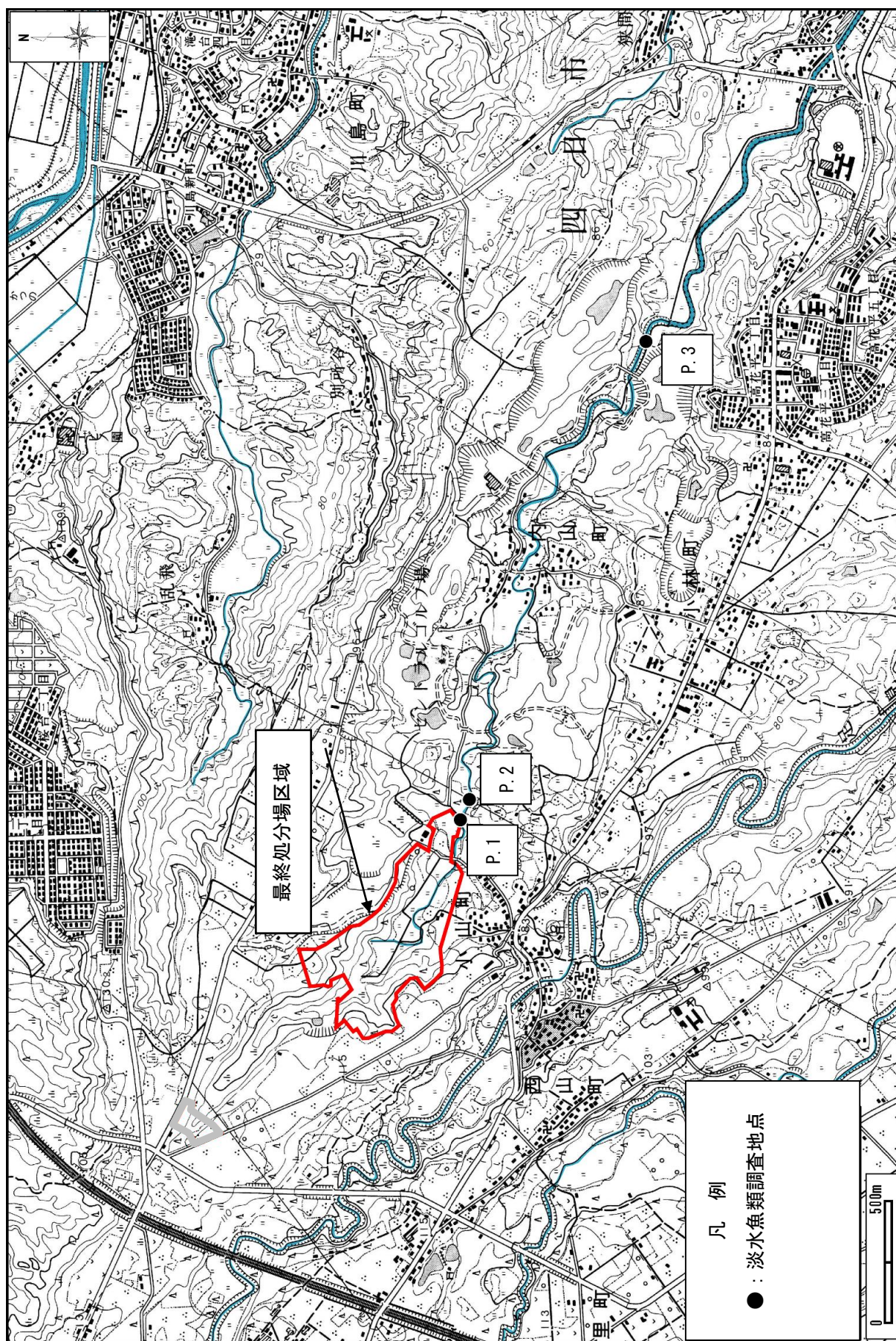


圖 4-3-3 淡水魚類調查地点

3-4 調査結果

3-4-1 捕獲調査・任意調査結果

カゴ網、セルビンによる捕獲調査及びタモ網による任意調査により、表 4-3-3 に示したとおりオイカワ、カワムツ、タモロコ、モツゴ、ドジョウ、メダカ、カワヨシノボリの 7 種の淡水魚類を確認しました。

カゴ網による調査では夏季は P.1 でカワムツ 1 種、P.3 でカワヨシノボリ 1 種を、秋季は P.3 でタモロコ 1 種を捕獲しました。(春季と冬季はいずれの地点も捕獲なし)

セルビンによる調査では、夏季は P.3 でタモロコ 1 種を捕獲しました。(春季、秋季、冬季は捕獲なし)

タモ網による任意調査では、各地点とも各季に 1~4 種を確認しました。

全体的に P.3 では 6 種を確認していますが、P.1 は 3 種、P.2 は 4 種と、やや貧弱な魚類相になっていると考えられます。

表 4-3-3(1) 魚類捕獲調査結果

調査方法	種 名	春季 (H26. 5. 14)			夏季 (H26. 8. 6)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			7	捕獲なし	
	カワヨシノボリ						1
	種 数				1		1
	個体数				7		1
セルビン	タモロコ	捕獲なし			捕獲なし		3
	種 数						1
	個体数						3
タモ網	オイカワ	○	○	○			○
	カワムツ			○			
	タモロコ		○	○			○
	ドジョウ		○				
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	2	4	4	1	1	3

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 4-3-3(2) 魚類捕獲調査結果

調査方法	種 名	秋季(H26.11.5)			冬季(H27.2.4)		
		調査地点			調査地点		
		P.1	P.2	P.3	P.1	P.2	P.3
カゴ網	タモロコ	捕獲なし		2	捕獲なし		
	種 数			1			
	個体数			2			
セルビン		捕獲なし			捕獲なし		
タモ網	オイカワ		○			○	
	カワムツ	○					○
	モツゴ			○			
	タモロコ			○			○
	メダカ						○
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	2	2	3	1	2	4

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

3-4-2 目視観察調査結果

各季に実施した調査では、各地点とも魚影を確認することはできませんでした。

3-5 まとめ

調査の結果、表 4-3-4 に示したとおり、3 目 4 科 7 種の淡水魚類を確認しました。

季節別では各季とも 4 種～5 種、地点別では、P.1 が 3 種、P.2 が 4 種、P.3 が 6 種でした。

表 4-3-4 魚類捕獲調査結果（確認種）

目 名	科 名	種 名	調査時季				調査地点		
			春季	夏季	秋季	冬季	P.1	P.2	P.3
コイ	コイ	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○
		カワムツ	○	○	○	○	○		○
		モツゴ			○				○
		タモロコ	○	○	○	○		○	○
	ドジョウ	ドジョウ	○					○	
ダツ	メダカ	メダカ				○			○
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○
3 目 4 科 7 種		種数	5	4	5	5	3	4	6

また、今回の調査結果を、表 4-3-5 に示した昨年度（平成 25 年度）の調査結果と比べてみると、季節別では、今回は夏季が昨年度よりやや少なく、他の季節で昨年度よりやや多い結果となりました。地点別では概ね昨年度と同様の結果でした。

確認種については、昨年度確認したギンブナが今回は確認できませんでしたが、反対に昨年確認できなかったメダカを今回確認しており、確認種数としては昨年度と同じになりました。

いずれにおいても、当該水域に生息する魚類相に大きな変化はみられないと考えられます。

表 4-3-5 魚類捕獲調査結果（確認種：平成 25 年度の調査）

目 名	科 名	種 名	調査時季				調査地点		
			春季	夏季	秋季	冬季	P.1	P.2	P.3
コイ	コイ	ギンブナ		○					○
		オイカワ	○	○	○	○	○	○	○
		カワムツ	○		○	○		○	○
		モツゴ		○					○
		タモロコ	○	○		○		○	○
	ドジョウ	ドジョウ		○					○
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○
2 目 3 科 7 種		種数	4	6	3	4	2	4	7

第4節 植物相

第1項 調査概要

事業実施区域周辺の残存緑地について、事業の実施による影響の有無を把握するため調査を実施しました。また、回復緑地の緑化状況についても調査を実施しました。

1-1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表 4-4-1 に示したとおりです。

表 4-4-1 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
残存緑地 回復緑地	平成 26 年 8 月 14 日	生育状況調査

1-2 調査場所

調査地点は図 4-4-1 に示したとおりです。

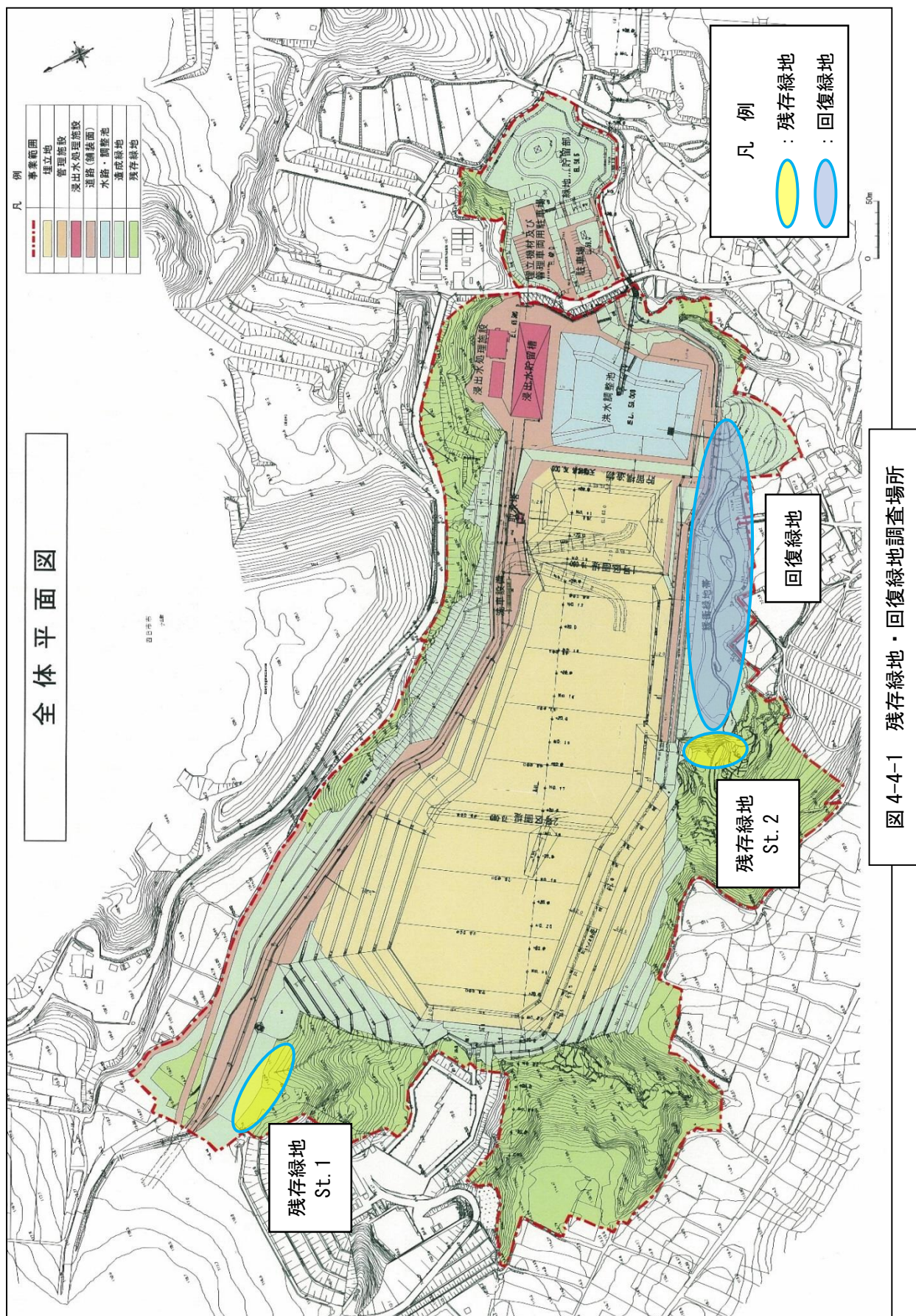
1-3 調査方法

残存緑地の調査は、定点を設定して、その地点から写真撮影を行い、その状況を記録しました。

回復緑地については、植栽樹の中から任意の個体（図 4-4-2 参照）を選定し、その個体について表 4-4-2 に示した活力度の判定基準に基づき、簡易的に樹木活力度を把握しました。

表 4-4-2 樹木活力度の判定基準

項 目	＜判定基準＞				
	← 良好な状態			不良な状態 →	
活力度	1	2	3	4	
	正常な開花や良好な枝葉、樹勢等、旺盛な生育状況を示し、被害がまったくみられない	開花状況や枝葉、樹勢等にわずかに異常がみられ、幾分被害の影響を受けているがあまり目立たない	開花状況や枝葉、樹勢等に異常が明らかに認められる	生育の状態が劣悪で回復の見込みがない	



第2項 調査結果

2-1 残存緑地

設定した2か所の残存緑地について調査2年目の状況を写真4-4-1～2に示しました。参考として昨年度（調査1年目）の写真も併せて掲載しました。

St.1では、昨年度と同様、高木層としてコナラ、ソヨゴ、カクレミノ、タブノキが、低木層としてヒサカキ、クロバイ、アラカシ、ネザサ、アセビ、ヤブニッケイ、シロダモ等の生育がみられました。

St.2についても昨年度と同様、高木層としてタブノキ、カクレミノ、マダケ、シロダモ、アラカシが、低木層としてアオキ、ネムノキ、ハゼノキ、ヤブツバキ、アラカシ、ヒサカキの生育がみられました。

両地点の樹林とも良好な状態ではありますが、今後もこれら樹林の状況を継続的に監視していきます。



写真 4-4-1 (1) 残存緑地の状況 (St. 1)



写真 4-4-1 (2) 残存緑地の状況 (St. 1 : 平成 25 年度参考)



写真 4-4-2(1) 残存緑地の状況 (St. 2)



写真 4-4-2(2) 残存緑地の状況 (St. 2 : 平成 25 年度参考)

2-2 回復緑地

回復緑地での調査の結果を表 4-4-3 に示します。

その結果、個体によっては生育状況が悪くなったものもみられましたが、全体的には概ね良好な生育状態でした。

表 4-4-3 植栽樹種の生育状況

植栽位置	No.	調査年月日	H25.11.11	H26.8.14
		種 名	活力度	
遊歩道南側	1	シラカシ	1	1
	2	イロハモミジ	1	1
	3	ウメ (図ではヤマザクラ)	1	3
	4	エノキ (図ではヤマボウシ)	1	1
	5	エノキ	1	1
	6	コナラ	1	2
	7	イヌシデ	3	－
	8	クヌギ	1	1
	9	ヤマボウシ	1	3
	10	イロハモミジ	1	2
	11	イロハモミジ	1	2
	12	クヌギ	1	1
	13	コナラ	1	1
	14	クヌギ	1	1
遊歩道北側	A	クヌギ	1	1
	B	スダジイ	2	1
	C	シラカシ	1	1
	D	スダジイ	1	2
	E	アラカシ	1	1
	F	シラカシ	1	1
	G	ケヤキ	1	1
	H	スダジイ	1	1
	I	アラカシ	1	1
	J	アラカシ	1	1
	K	ケヤキ	1	2
	L	イロハモミジ	1	1
	M	ケヤキ	1	1
	N	マテバジイ	1	1
	O	シラカシ	1	2
平均活力度			1.1	1.4

第5節 特筆すべき植物活着確認調査

第1項 調査概要

平成21年度に移植を行った種について、移植5年後の活着の状況を調査しました。

また、隣接する処分場の調整池に仮移植中であった湿地性植物3種（ミズワラビ、ミズマツバ、シソクサ）について、本施設の調整池内に本移植を行うとともに、一定期間経過毎の活着確認調査も実施しました。

1-1 調査年月日及び調査内容

調査内容及び調査年月日は表4-5-1、2に示したとおりです。

表4-5-1 調査内容及び調査年月日

種 名	調査内容及び調査年月日
	移植5年後活着確認
カラタチバナ	平成26年4月22日 平成26年6月4日
ササユリ	
ギンラン	
アキザキヤツシロラン	

表4-5-2 調査内容及び調査年月日

種 名	調査内容及び調査年月日	
ミズワラビ ミズマツバ シソクサ	本移植作業	平成26年4月30日
	移植1ヶ月後活着確認調査	平成26年6月4日
	移植3ヶ月後活着確認調査	平成26年8月14日
	移植6ヶ月後活着確認調査	平成27年1月30日

1-2 調査地点及び調査方法

活着確認調査は、最終処分場区域内の移植先で実施し、対象種の生育状況を観察し、記録しました。また、湿地性植物の本移植調査については、隣接する処分場の調整池より、本施設の調整池に植え替える本移植作業を実施しました。

いずれも調査地点については、盗掘等を防ぐため掲載を控えました。

第2項 調査結果

移植を行った種の移植5年後の活着の状況は下記及び表4-5-3に示したとおりです。

なお、移植対象種の移植当初からの推移は表4-5-4に示したとおりです。

- ①カラタチバナは、今回の調査では移植地Aで4個体を確認しました。移植3年後調査時から変化はなく、活着状況も良好と考えられます。
- ②ササユリは、移植3ヶ月後以降確認できず、今回の調査でも確認できませんでした。移植した3個体はいずれも開花しない程度の小さな個体でしたが、仮に盗掘されたものではなく、鱗茎が残っているとすれば、数年は発芽と枯れや動物による捕食等を繰り返しながら、少しずつ生長がみられるものと期待されます。
- ③ギンランは、移植地Aで1個体を確認しました。移植当初より少しずつ減少していますが、生育確認個体の活着状況は良好でした。
- ④アキザキヤツシロランは、今回の調査では確認できませんでした。本種は地下茎によって菌類と共生関係を結ぶという特殊な生態を持っているため、移植に伴う微妙な環境の変化によって地下で休眠状態にあるのではないかと考えられます。今後の土中環境の変化によっては、ふたたび生育・開花がみられることも期待できます。また今後、土中の種子からの新たな個体の生育が確認される可能性もあります。

表4-5-3 調査結果

種 名	移植5年後活着確認
カラタチバナ	4個体生育確認
ササユリ	生育確認できず
ギンラン	1個体生育確認
アキザキヤツシロラン	生育確認できず

表4-5-4 移植個体の活着状況推移

種 名	移植時からの確認状況の経過					
	移植当初	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後	3年後
カラタチバナ	8個体	8個体	8個体	8個体	3個体	4個体
ササユリ	2個体	1個体	確認できず	確認できず	確認できず	確認できず
ギンラン	26個体	26個体	21個体	18個体	7個体	7個体
アキザキヤツシロラン	24個体	2個体	1個体	確認できず	1個体	確認できず

※：表中の数字は、生育確認個体数を示す。

次に、隣接する処分場の調整池から、本施設の調整池に本移植を行った湿地性植物 3 種の状況については、表 4-5-2 に示したとおりです。

表 4-5-2 調査結果

種 名	調査内容及び調査結果	
ミズワラビ ミズマツバ シソクサ	本移植作業	いずれも生育確認できず
	移植 1 ヶ月後活着確認調査	いずれも生育確認できず
	移植 3 ヶ月後活着確認調査	いずれも生育確認できず
	移植 6 ヶ月後活着確認調査	いずれも生育確認できず

- ①ミズワラビは確認できませんでしたが、本種の胞子は土中に存在し、休眠状態であると考えられ、今回の本移植に伴い、環境条件が整えば生育が確認できるものと考えられます。
- ②ミズマツバについては、確認できませんでしたが、本種の種子は土中に存在し、休眠状態であると考えられ、今回の本移植に伴い、環境条件が整えば生育が確認できるものと考えられます。
- ③シソクサについては、確認できませんでしたが、本種の種子は土中に存在し、休眠状態であると考えられ、今回の本移植に伴い、環境条件が整えば生育が確認できるものと考えられます。